

ALL for ONE

Corporate Communication Magazine

Vol.3



NIPPON KABAYA OHAYO HOLDINGS inc.

Education



『軸』



軸とは世界に通用する真の日本人について学ぶこと



人も企業も必ず困難に立ち向かい
乗り越えることで成長する
ブレない軸をもつことで
パフォーマンスを最大限発揮する

教育とは人の役に立つ知見を身につけること

インタビュー特集「教育」

グループ企業の教育機関に人材育成のヒントを探る



特集 1

歴史の造詣に裏打ちされた教育論

学校法人三友学園 副理事長 安藤 喬

特集 2

岡山県
専門学校

No. 1

就職決定率

99.2%

専門学校岡山情報ビジネス学院 理事・統括部長 高岡 信吾

特集 3

新たな^{学びの}スタイルを確立

クラーク記念国際高等学校 岡山キャンパス 教務部長 森永 静二

特集 4

卒業率 **95%** 以上!

希望高等学園 副校長 伊藤 英明

三友学園グループ

岡山県での教育分野における社会貢献を目指し、1985年に学校法人三友学園を創立し、86年に専門学校岡山情報ビジネス学院を設立。96年には高等学校部門として、クラーク記念国際高等学校岡山キャンパスを開校しました。また、塾運営を展開していた㈱サンユー総合教育研究所がクラーク記念国際高等学校通信課程の教育連携校として、98年に希望高等学園を開校。この3つの学校を「三友学園グループ」と呼んでいます。

「支えて頼らず」の気構え持て



日本カバヤ・オハヨーホールディングス株式会社
取締役副社長

学校法人三友学園 副理事長

株式会社サンユー総合教育研究所
取締役副社長

安藤 喬さん

経営方針の一番目に掲げられている「人材投資・育成」。グループ企業の中で教育事業を展開する学校法人三友学園グループは、その担い手として期待されています。今回、副理事長の安藤喬さんに、自身の教育論や社会人として必要な心得などについて語ってもらいました。

—安藤さんが描く「教育論」から聞かせてください。

教育は3つの側面がある産業だと思っています。1つは感動産業。教科書に書いてあることを教えるだけでなく、授業に感動がなければ教育とは言えません。2つ目は人を育てて幸せを創造する産業で、企業をリードしていく人材を輩出することが教育機関として一番の地域貢献です。3つ目はいかに少子化が進もうと、親に子どもへの愛情がある限り永遠に続く産業でもあります。教える側と教えられる側との間には友だちのような関係ではなく、「敬」の字がなければ教師の思いは決して学生に届かないと考えています。

—不登校やいじめなど、学校現場をめぐるトラブルが減らない現状があります。

学校だけでなく家庭、地域の教育力が三位一体で機能しなければ軸のしっかりした人間には育ちませんが、現在の教育は、しつけやマナーが欠けているのではないのでしょうか。私は、戦前の教育は礼儀作法を厳しく教える「父性の教育」だったのに対し、戦後は「母性の教育」になり、甘やかされて権利意識ばかり強くなったと分析しています。現在の教育現場で発生している問題は、両者のバランスが崩れてしまったのが大きな原因ではないのでしょうか。

—そのような状況を踏まえ、三友学園グループではどのようなことに取り組んでいるのですか。

学生数は過去最高を更新し続けていますが、「量」の面ではそろそろ限界です。岡山情報ビジネス学院は即戦力の養成、クラーク記念国際高等学校岡山キャンパスと希望高等学園は多様な個性を伸ばす—という建学の精神は守りながら、父性と母性のバランスが取れた「質」を重視した教育への転換を目指しています。日本などの先進国では、経済的な豊かさであるGDP（国内総生産）が重視されがちでしたが、それで人間として幸せなのか。継続して成長するためには内面の豊かさが欠かせず、ブータンの国王が来日した時に話題になった「国民総幸福量（GNH）」の考えを取り入れ、「職員の

所得」「仕事のやりがい」「社会的評価」を10年間で2倍以上にするという大きな目標を立てているところです。

—企業が学生に求める人物像も変わっています。

一定レベルのスキルはもちろん必要ですが、「常識」や「マナー」を備えた人材を求める傾向が強まっています。哲学者のルソーは人間不平等起源論で「あらゆる人間の知識のうちで、最も有用でありながら最も進んでいないものは、人間に関する知識である」と述べていますが、まさにその通り。深みのある人材を育てるため、歴史を教科書にした人間学が重要になると考えており、将来開設を目標にしている大学でも取り組みたいと思っています。



—社会人に対する教育はどうあるべきでしょうか。

「啐啄同時（そったくどうじ）」という禅の言葉があります。「啐」はヒナが卵の内側から殻をつつくこと、「啄」は親鳥が外側からつつくことを言い、そのタイミングが合って初めて殻が破れヒナがかえるというもので、教育界では教える側と学ぶ側の気持ちが一致した時に大きな成果につながるという意味でよく使われます。企業の従業員教育でも同じことが言え、経営者の理念に従業員が心から共感したときに爆発的な成果、意識のイノベーションが起きるのではないのでしょうか。

—グループ従業員へのメッセージをお願いします。

1人ひとりが“支えて頼らず”の精神で、国や企業、そして愛する人を支えられるだけのものを身に着けるために学んでもらいたいですね。学びたいと思ったときこそ適齢期であり年齢は関係ありません。我々もいろいろな階層に合わせて研修の場などを提供していきたいと考えており、ぜひ「いつでも出番の気構え」を持ち、頑張ってください。

「心を動かすこと」が教育の醍醐味

専門学校岡山情報ビジネス学院 理事・統括部長

高岡 信吾さん



専門学校岡山情報ビジネス学院

今年で創立31年を迎えた専門学校岡山情報ビジネス学院。地元企業に多くの人材を輩出し、地域経済の発展に貢献しています。同学院の一期生として入学し、卒業後教員として活躍している高岡信吾理事・統括部長に、専門学校として学生の人格形成に力を入れる理由や教育についての考え方などをインタビューしました。

—まずは学校の教育方針を教えてください。

専門学校岡山情報ビジネス学院は、地元の若者の育成を通して地域に貢献しようと1985年に創立しました。これまで31年間貫いている方針は、すべての学生に愛情を持って接し、一人ひとりの幸せを第一に考えて指導していることです。私たちはその熱い思いを伝えようと必死ですから、指導は厳しくしていると思いますよ。教師は、本気ですべての学生を幸せにしようと思っているのですから当然です。その代わりに、学生の人生を必ず豊かにすることを約束すると宣言しています。

—そこまで熱を入れて指導する理由は。

入学した学生を教師1人ひとりが自分の家族のように思っているからです。だからこそ、指導に熱が入るのだと思います。また、ここ数年、経済情勢や社会環境は、急速に変化しています。目まぐるしく変化する社会において、しっかりと自立し、自主性を持って社会で活躍してほしいと思っています。それと、卒業生から「自分が幸せになったら誰かに分けてあげたい。これってハッピースパイラルですよ」と言われたことがきっかけで、私自身も幸せを多くの人に分けられるように心掛けていることも熱い指導の原動力になっていますね。

—自主性というキーワードが出ました。昨今、自主的に行動する若者は少ないように感じるのですが、岡山情報ビジネス学院の学生はどうか。

学生には自主性を持って行動してほしいと言い続けてきました。ここ数年、それがようやく浸透してきたのではないかと考えています。新入生が先輩の行動を見て、それを真似するようになっているのが一つの良い例だと思います。時間はかかりましたが、言い続ければ必ず伝わります。何事もあきらめないことが大切ですね。

—さまざまな個性を持った学生がいますが、コミュニケーションで心掛けていることは。

現在、1000人を超える学生が在籍しており、進路などいろいろな相談に訪れます。1人ひとりがどういった気持ちで相談にくるのかなどを考え、心に寄り添ってコミュニケーションをとるように心掛けています。最終的にどうするかはすべて学生次第ですので、教師の思いだけを押し付けても意味がありません。また、何かアドバイスする時は、学生の将来を想像して話すようにしています。先の人生で何かに迷った時、どうすればいいかを自分で判断できるだけの材料を与えたいと思っています。

—専門知識だけでなく、人格形成教育にも力を入れているのは、そういった考えがすべての教師に浸透しているからでしょうか。

そうですね。資格は仕事において一つのツールでしかありません。それを生かし自分の人生をどう豊かにしていくかを考え、行動することが重要です。そのためには、自分自身の人間力を高めなければなりません。さまざまな人と交流することで多種多様な人との人脈を形成し、人間力向上を図ってほしいと思っています。

—高岡さんにとって「教育」とは。

教育は「気付き」だと思っています。学生指導でよく「心に火をつける」という言葉を使っていますが、どんなに正しいことでも本人にとって意味を見いだせないのであれば、良い結果は得られません。また、火をつけるポイントはそれぞれ違うので、数が増えれば増えるほど一筋縄ではいきませんが、私はその難しさも教育の魅力であると思っています。どんなに難しいことでもその学生の気持ちに寄り添い、「共感」する指導をし続けることが、学生の心を動かす原動力になるのだと思っています。これからも教員、スタッフ全員で、学生1人ひとりの幸せを考え、学校にかかわる人すべてを「ハッピースパイラル」に巻き込めるよう全力で取り組んでいきます。



専門学校 **岡山情報ビジネス学院**

厚生労働省から専門実践教育訓練給付指定校に
認定された県下唯一の専門学校

住 所	岡山市北区駅元町1-4 ターミナルスクエア1階、3～12階
学 生 数	1155人(2016年5月1日現在)
学 科	14学科
教 職 員	65人
Website	http://www.oic-ok.ac.jp/

「愛情ある厳しい指導」が我々の使命

クラーク記念国際高等学校 岡山キャンパス 教務部長

森永 静二さん



クラーク記念国際高等学校 岡山キャンパス

毎日学校に通う全日型の通信制高校として、今年で開校20年のクラーク記念国際高等学校岡山キャンパス。すべての生徒を自分の子どものように、愛情を持って厳しく指導する教務部長の森永静二さんに、学校の特徴や教師としてのモットーなどを聞きました。

—まずは設立のきっかけ、成り立ちを教えてください。

クラーク記念国際高等学校は北海道に本校がある通信制の高校で、ここを運営している学校法人創志学園の大橋博理理事長は、長年、野津喬会長と交友がありました。大橋理事長が学校運営の全国展開を検討している中、専門学校を運営している野津会長に声を掛けたことがきっかけです。岡山キャンパスは東京、芦屋に次いで3校目として、1996年4月に岡山市北区下石井にあった旧カバヤ食品社員寮を改築して開校しました。今年度は90人の入学生を迎え、全校生徒数が初めて200人を超えました。

—通信制高校としての特徴はありますか。

特徴は、毎日学校に通う全日型の通信制高校ということです。学校では「豊かな社会性を育む学校」「アットホームな学校」「1人ひとりに寄り添う学校」という教育方針を掲げています。実社会に適応させるためコミュニケーション力を向上させ、将来社会人として活躍できるよう指導しています。全日型の学校ですので、週5日の登校に加え、文化祭や修学旅行など普通の高校と変わらない行事も実施しています。

—生徒とのコミュニケーションで心掛けていることは。

愛情を持って、厳しく接しながら、生徒個人の人格を尊重するようにしています。不登校経験がある生徒が多いので、あいさつや正しい言葉遣い、身だしなみ、他者への思いやりなど基本的な生活習慣を着けさせ、充実した学校生活を再構築できるように指導しています。

—森永さんが教育に携わって、これまでで一番うれしかったことは。

中学校まで学校生活を楽しめなかった生徒たちが、毎日元気に明るく笑顔で学校に登校し、集団の中で成長していく姿を見た時ですかね。あと、卒業後に学生や社会人として立派に活躍していることを知った時もうれしいです。

—卒業生はどういった場所で活躍していますか。

卒業生は、専門学校や大学へ進学し、就職するといったケースが多いです。岡山情報ビジネス学院へ進学する生徒も多く、本校で3年、ビジネス学院で2～3年学習し、社会へ巣立つといった三友学園グループ内での連携もとれていますね。就職では、県内外の企業や学校など多方面で活躍しています。変わったところでは、アメリカの大学で心理学を学び博士課程まで進んだ人や海上自衛隊で潜水艦の乗務員として頑張っている卒業生もいますよ。

—教師としてのモットーを教えてください。

教師であると同時に「個人」として「家庭人」として「地域人」として、自分は生徒に教える資格のある「生き方」ができているかを常に問い掛けています。生徒らが「大人になることに希望が持てる」人間でありたいと思っています。また、親が子どもを思う気持ちは、時代が変わっても同じです。すべての生徒に対し自分の子どものように接し、保護者の気持ちに寄り添いながら、しっかりと生徒を指導し社会に送り出していくことが使命だと思っています。

—未来へ向けての展望は。

すべての生徒を自分の子どもと思っている以上、全員が一人前に育ってほしい。生徒が不登校などの逆境を経験し、ある意味、負の状態から脱却し一人前の人間として教育することはもちろんですが、これからは、それ以上に礼儀と節度を持った社会貢献できる人材を育成していくことが必要になると思います。



クラーク記念国際高等学校 岡山キャンパス

岡山県で唯一の「通信制全日型教育」の高校

住 所	岡山市北区島田本町1-2-12
生 徒 数	201人
学 科	普通科（進学コース、基礎コース、デザイン・アニメコース、情報・ビジネスコース）
教 職 員	10人
Website	http://clark.oic-ok.ac.jp/

異能こそ、現代社会に必要

希望高等学園 副校長

伊藤 英明さん



希望高等学園

インターネットを利用した在宅学習などで高校卒業資格を取得できる希望高等学園。これまでに約1500人以上の卒業生を輩出しています。今回、副校長の伊藤英明さんに学校設立のきっかけや特徴、生徒との接し方で心掛けていることなどを聞きました。

―学校設立のきっかけを教えてください。

1996年に、北海道に本校があるクラーク記念国際高等学校（以後、クラーク高校）の岡山キャンパスを開校後、クラーク高校の本校から岡山で通信制のサポート校を設けてはどうかとの話がありました。岡山キャンパスは毎日学校へ通うことを前提にした高校ですが、さまざま事情から通学が困難な生徒もいます。そんな生徒も受け入れようと1998年にサポート校として希望高等学園を設立しました。初年度は生徒数24人からスタートし、翌年末には100人を超えました。2009年に開校した津山校と岡山校を合わせて、現在約220人の生徒が在籍しています。

―毎日通学が困難な生徒がいるということですが、学校の特徴やほかの通信制高校との違いは。

名前に「希望」とあるように、週2日、希望する日に通えるという週2日通学コースと在宅学習の岡山Webハイスクールの2コースを選んで入学することができるのが特徴です。卒業の時には、クラーク高校の卒業証書が渡され、卒業資格を取得できます。担任制を採用し、95%以上が3年間で卒業しています。ほかの通信制高校では生徒がなかなか勉強に集中できないなどの理由で卒業まで4～6年かかるところもありますから、他校に比べて比較的早く卒業できるよう指導しています。

入学者は、新入学が60%、転入学・編入学が40%です。多くの生徒が何らかの不安を抱えて入学しているので、将来に向けて夢と希望を持ってもらえるよう、誠心誠意サポートしています。そのため、教員は生徒一人ひとりと正面から向き合い、個性や才能を伸ばす指導を心掛けています。

―伊藤先生自身も教師として登壇しているそうですが、教師として何を大切にしていますか。

生徒の個性や性格に応じて対応することと、常に「公正・公平」であることですね。教育で一番大切なのは信頼関係です。生徒は教師が自分以外のひとどのように接しているかなども敏感に反応します。もし特定の生徒に目を掛けるような行

動をしたら、すぐに教師に対する不信感が生まれてしまいます。それぞれの生徒を自分の子どものように思い、大切に接するようにしています。

―具体的にはどのような指導を心掛けているのですか

生徒の能力や個性に応じた指導を心掛けています。例えば、学力の高い生徒には英検や漢検などの検定試験への挑戦を勧めています。また、特に心掛けているのは、生徒に対する態度と言葉遣いです。心に傷を負った生徒もいますので、安心して通学できるよう、生徒の心を思いやり理解を示すように接しています。生徒を指導する場合でも、人がいる場所で叱るのではなく、場所を変えて個別に指導するようにしています。怒鳴らなくても、きちんと説明すれば生徒には伝わりますからね。

―仕事を通して一番うれしいと感じることは。

入学当初、引込み思案だった生徒が、毎日あいさつできるようになることや、暗い顔つきだった生徒の笑顔が見られるようになるなど生徒の成長を感じたときが一番うれしいですね。また、卒業式で家族の方々が泣いて喜んでいるのを見ると胸が熱くなります。卒業生が就職し、社会人になったことを報告に来てくれるときもうれしいですね。

―通信制であっても、高校卒業の資格がとれて、卒業生も活躍されているとのこと。高校の選択肢の幅が広がりますね。

2017年4月には福山校を開校します。今後は、中四国での開設を進めていく考えです。全日制高校や定時制高校への進学が難しいお子さんがいる従業員の方に、個性や異能を伸ばす新しい第3の進学先として検討していただけたらと思います。



クラーク記念国際高等学校サポート校

希望高等学園

学習意欲のある人は誰でも入学し、高校卒業資格を取得することが可能

住 所	岡山校 岡山市北区幸町9-1 幸町会館4階 津山校 津山市大手町11 みつやビル2階
生 徒 数	210人 (2016年8月現在)
学 科	普通科 (週2日通学コース、岡山Webハイスクール)
教 職 員	7人
Website	http://www.oic-ok.ac.jp/kibou/

オハヨー乳業 プライド奪還に向けて全社会議開催 ―我々は常にグループのリーディングカンパニーでなければならない―

6月の株主総会にて新体制が発足し、1軍企業昇格を目指すオハヨー乳業は、8月5日、本社にて全社会議を開催しました。

存在目的ならびに経営方針の完全浸透と、部門の垣根を超え、自由闊達な議論を以って全従業員が事業活動を推進していくことの周知を目的とし、これまでにない会議となりました。



10年ビジョンを発表する専務取締役の古川廣志さん



第一部ではグループ存在目的ならびに経営方針の大唱和から始まり、10年ビジョンの共有と役員・執行役員全員が、それぞれのミッションステートメントを発表しました。

三國専務はスピーチの中で「グループ経営において、我々は現在、3軍に位置づけられている。しかし、これを心底悔しいと思いつける文化が、オハヨーにはもともとある。オハヨーの潜在能力はこんなものではないはずだ。もっともっと汗を掻いて、みんなの力を結集し、全員野球でこの局面を突破していこう」と述べました。第二部では、誇りあるブランドの構築を目指すべく、10年先を見据えた今秋から来春の開発・販売戦略についての討議をし、厳しくも前向きな議論が展開され、とても有意義な時間となりました。

ラジオ体操で県の優良団体に



エス・バイ・エル・カバヤのカバヤホーム事業部は、8月8日、㈱かんぼ生命保険岡山支店からラジオ体操を実施する優良団体として表彰されました。

「ラジオ体操優良団体等表彰」は、かんぼ生命保険が社会貢献活動の一環で実施しているもので、毎年、ラジオ体操の普及奨励に寄与した功績の著しい団体、個人を対象に表彰しています。今回、カバヤホーム事業部が約2年半前から年間200日以上、朝礼後にラジオ体操を実施していることを申請。評価基準とクリアしていることから、普及に取り組む企業として表彰されました。

続けている社員からは肩こり解消につながったなどの声もあり、窪田健太郎専務は「これからも継続して取り組み、社員の健康促進、体調管理に努めたい」と話しています。

キャラメルミルクハウスのイベント初開催



カバヤ食品、オハヨー乳業、エス・バイ・エル・カバヤは、7月30日、エス・バイ・エル・カバヤの展示場「カバヤホーム岡山南店」で、共同コミュニティサイト「Caramel milk house」のイベントを初開催しました。

サイト会員や当日会員登録してくれた人を対象に、「プリンピック」と題し、3種類のプリンを食べ比べてもらいサイト内でお気に入りのプリンに投票してもらいました。モデルルームのゆったりした雰囲気の中でプリンを試食でき、お客様はみんな大喜び。スタッフも会員と直接意見を聞けるなど貴重な時間を過ごすことができました。

カバ車の展示やお菓子もプレゼントし、各社とも大いにPRすることができました。今後、県外でもイベントを検討しており、ファンの開拓に注力していく考えです。

夏のスペシャルオープンキャンパス



専門学校岡山情報ビジネス学院は、8月6日、夏のスペシャルオープンキャンパス「サマーフェス2016」を開きました。

高校生を対象に、授業内容や学費などの各種説明会、各学科ごとに体験授業を実施しているスペシャルイベント。会場では、在校生が参加した高校生らとランチをしながら、授業や学生生活などの話で会話が弾んでいました。また、在校生によるうらじゃ連「乱舞花風」が踊りを披露し、会場は大いに盛り上がりしました。

参加した高校生は「在校生からたくさん話が聞けてとても参考になりました」「うらじゃ踊りが格好よくて、充実した学生生活を送っているのがよく分かりました」など、未来の楽しい学校生活を想像できるよい機会になったようです。

コミュニケーションツールが変わります

グループ社員3000人がつながる！

新商品の売れ行き好調です。
バイヤーの評価も↑↑です！

お客様のお子様が進学先検討中とのこと。OIC のパンフレットを一部ご手配ください

今日の夕方には事務所に届けます！

3000人

×

12/5のイベントのMOVIEです。
経営方針の説明あり、全社員、必ず見てください！



特に35:30からのところが必見！

Communication

×

Speed

次回の営業会議は

10/5 10:00 ~

場所は本社第3会議室に変更になりました

〇〇という素材に詳しい方を探しています。

誰か心当たりはありませんか！？

お客様にその分野の研究者がいますので仲介します

友人が関係のゼミにいたはず！
聞いてみます！！

新規事業の提案資料を作成しました。

チェックをお願いします！



来週末、フットサルチームの大会。
応援ヨロシクお願いします！



LIVE! ビデオ会議中



事業のシナジーより人がつながるのが先 !!

Innovation!

●メッセージだけでなく、写真、動画も3000人と共有！

●現場からの動画共有でスピーディにトラブル解決！

●使いやすいアプリでコミュニケーションもスピードアップ

●ビデオ会議で、遠隔地からもミーティングに参加！

※全社への導入完了は今年12月末を予定しています

●「ALL for ONE」について

膨大な情報があふれる社会で、今、本当に伝えたい事を切り取りインパクトを以って皆に伝える。

同時に、3000人の従業員一人ひとりに焦点を当てて皆で支えていく、そのために発行したのが ALL for ONEです。

現場の意見や解決したい問題など、
誹謗中傷以外、全て受付ています。

日本カバヤ・オハヨーホールディングス

社長室 担当:北山

FAX:086-231-4783

Mail: info@kabaya-ohayo.jp

編集後記

今回のテーマは「教育」。かなり大きなテーマだけにどういった内容にするか苦労しましたが、基弘社長以下、各事業会社から7人が集まり、熟考を重ねました。基弘社長は「日本人としての誇りを持って、人の役に立つことが社員教育の第1歩」と話していました。これまで学校で受けてきた教育は自分のためのものですが、社会人としての教育は、人の役に立つためのものだということです。では、基弘社長が言う「人の役に立つ」とはどういうことなのでしょう。専門学校岡山情報ビジネス学院の学生たちは、すれ違う時に必ずあいさつしてくれます。我々のグループ会社の従業員は、どうでしょうか。そこに答えがあると思います。「世界に通用する真の日本人について学ぼう」と熱く語る基弘社長の目は、とても輝いていました。(細川)

表紙写真: 専門学校岡山情報ビジネス学院の先生と学生

日本カバヤ・オハヨーホールディングス株式会社

本 社 岡山市北区駅元町1-4 ターミナルスクエア11階

電 話 086-223-7131

Website <http://kabaya-ohayo.com/>

カバヤ食品株式会社

本 社 岡山市北区御津野々口1100

電 話 086-724-4300

Website <http://www.kabaya.co.jp/>

オハヨー乳業株式会社

本 社 岡山市中区神下565

電 話 086-279-1231

Website <http://www.ohayo-milk.co.jp/>

エクセルバック・カバヤ株式会社

本 社 岡山市中区雄町394-12

電 話 086-279-8900

Website <http://www.exl-kabaya.co.jp/>

株式会社スクエアビル

本 社 岡山市北区駅元町1-4 ターミナルスクエア11階

電 話 086-224-0371

Website <http://www.square-building.com/>

フジ物流株式会社

本 社 瀬戸内市長船町長船1177-2

電 話 0869-66-0222

Website <http://www.fujibutsuryu.jp/>

東京レジャー開発株式会社

本 社 東京都中央区日本橋小網町10-2 日本橋フジビル5階

電 話 03-3669-2964

Website <http://tokyo-leisure.jp/>

エス・バイ・エル・カバヤ株式会社

本 社 岡山市北区中仙道2-9-11

電 話 086-241-8811

Website <http://www.sxl-kabaya.co.jp/>

株式会社イケダペットファーム

本 社 東京都中央区日本橋小網町10-2 日本橋フジビル6階

電 話 03-5614-7165

Website <http://www.ikedabokujou.co.jp/>

トータルアシスト・カバヤ株式会社

本 社 岡山市北区下石井2-1-3 岡山第一生命ビルディング11階

電 話 086-235-4422

株式会社瀬戸内海経済レポート

本 社 岡山市北区西島田町8-9

電 話 086-805-6188

Website <http://www.visionokayama.jp/>

三友学園グループ

専門学校岡山情報ビジネス学院

住 所 岡山市北区駅元町1-4 ターミナルスクエア1階, 3～12階

電 話 086-224-2336

Website <http://www.oic-ok.ac.jp/>

クラーク記念国際高等学校 岡山キャンパス

住 所 岡山市北区島田本町1-2-12

電 話 086-239-1623

Website <http://clark.oic-ok.ac.jp/>

希望高等学園

岡山校 住 所 岡山市北区幸町9-1 幸町会館4階

電 話 086-232-8135

津山校 住 所 津山市大手町11 みつやビル2階

電 話 0868-35-2380

Website <http://www.oic-ok.ac.jp/kibou/>

株式会社システムメイト

本 社 岡山市北区芳賀5325-1 岡山リサーチパーク9-1

電 話 086-286-9131

Website <http://www.system-mate.com/>

日本カバヤ・オハヨーホールディングスグループ

Corporate Communication Magazine "ALL for ONE" Vol.3

発行: 2016年8月30日

制作: 「ALL for ONE」編集室

〒700-0981 岡山市北区西島田町8-9

(株)瀬戸内海経済レポート内 ☎086-805-6188 FAX 086-805-6177